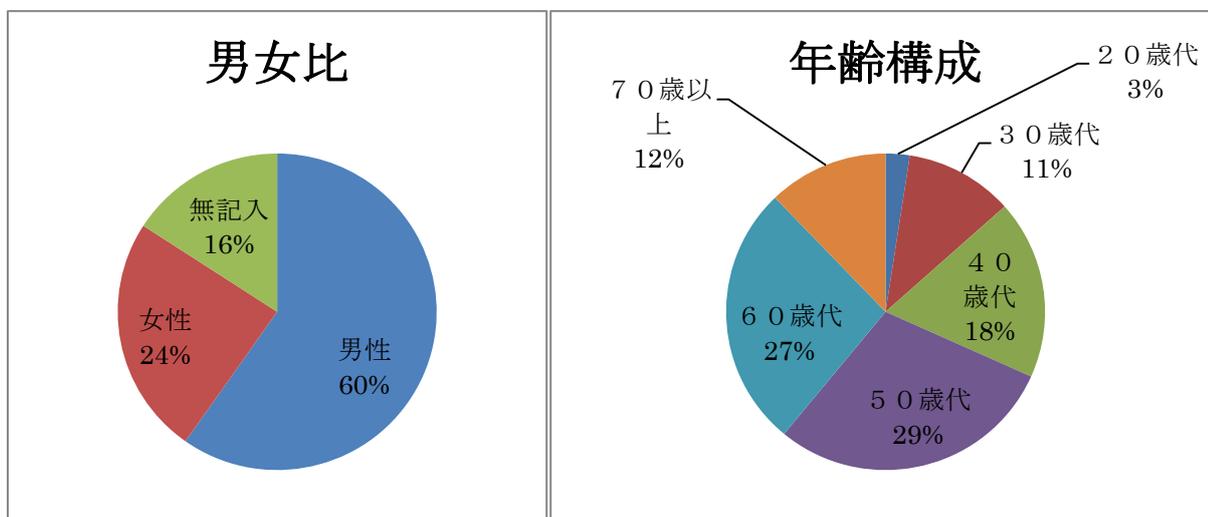


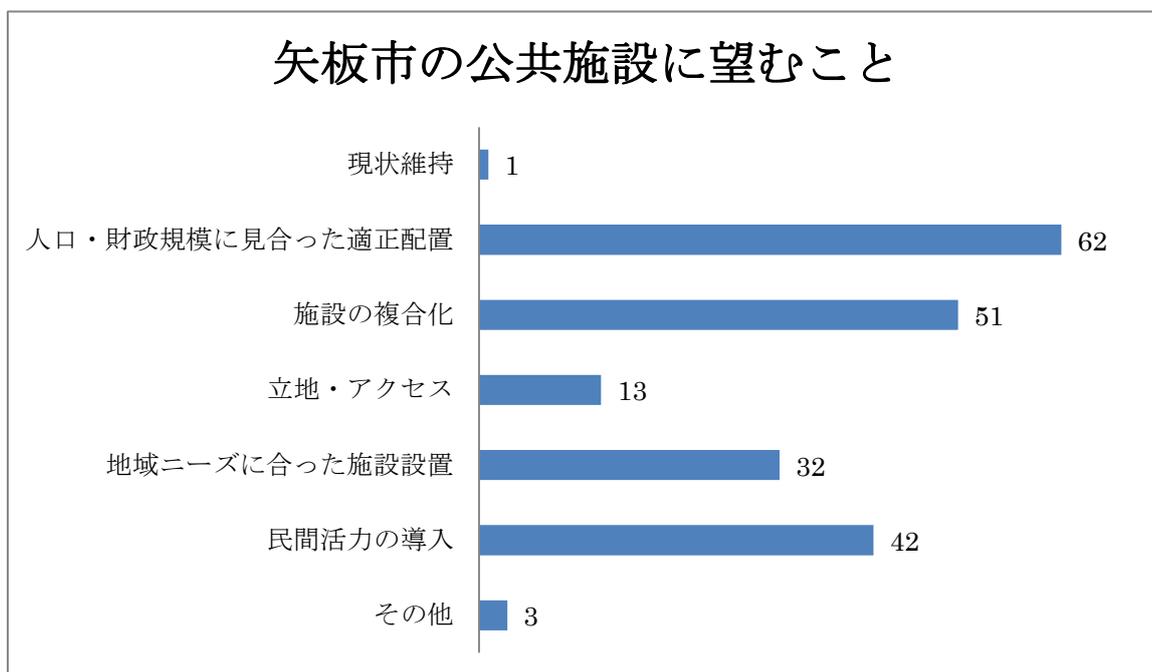
アンケート結果

アンケート提出件数 82件 回収率64.1% (出席者128人)

参加者の男女比、年齢構成は以下のとおりです。



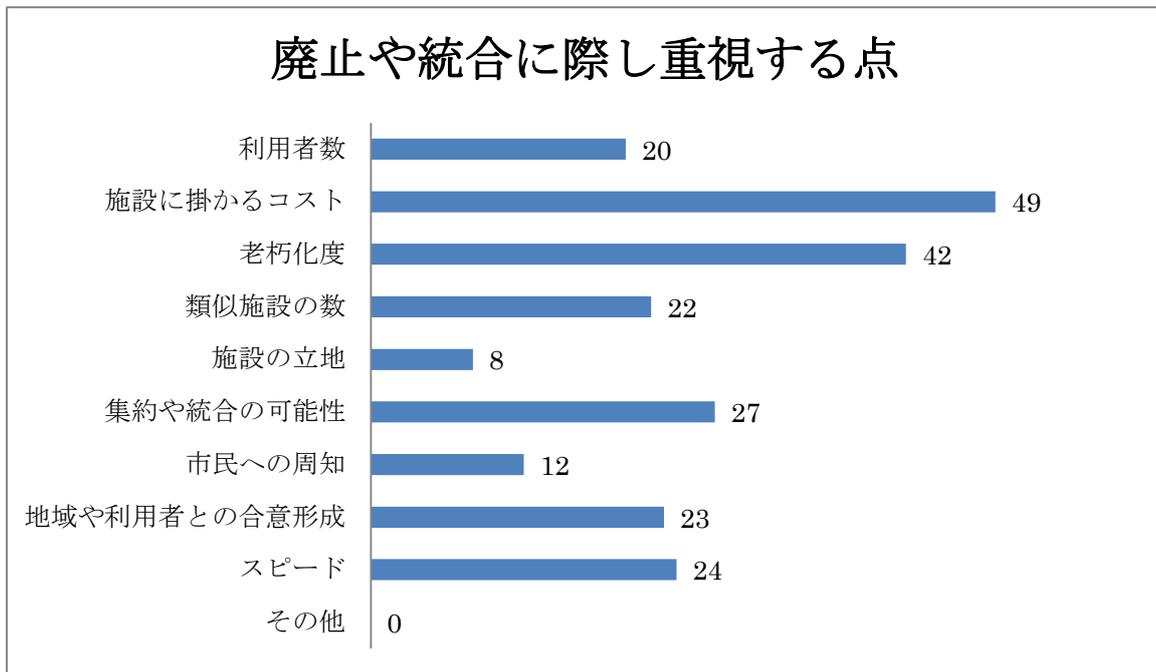
今後の矢板市の公共施設に望むこと（上位3つまで選択可）に対する回答は以下のとおりとなります。



その他

- ・ 公共施設は対応年数が長く、人口減少が見込まれる中での長期計画
- ・ 利用者による費用負担
- ・ 本当に必要かどうかの検討

公共施設を廃止や統合する際、何を重視するか（上位3つまで選択可）の回答は以下のとおりとなります。



自由意見

- ・30年間の計画実施は長すぎる。(外1名)
- ・30年ではなくもっと早い計画の実現を。
- ・30年後を考えるのではなく、3・5・10年先を見据えた戦略を。
- ・スピード感をもった対応を。
- ・老朽化施設が多いため、スピード感を持った対応が必要。
- ・5年10年と確実に何か形を示して欲しい。
- ・市民に分かりやすく説明すると共に、強い信念を持ってスピード感を持って取り組んで欲しい。
- ・公共施設は、その地域の文化・歴史・絆を形成しコミュニティを育んできた。統廃合にあたっては慎重で丁寧に進めて欲しい。又、ランドデザイン等、具体的な行動計画を示して欲しい。
- ・スピードは大切だが、矢板の未来をしっかりと考えて進めて欲しい。
- ・市民への周知（計画内容、40%削減の意味、優先順位）
- ・早急な市民への周知を希望する。
- ・市民へ問題点を周知することが必要。
- ・目に見える形として、なにか一つをやめるべき。それをわかりやすく市民に周知すれば、一気に周知が図れる。
- ・1年をかけて周知、アンケート（全市民・小中学校・幼稚園）を実施し30年後の未来のビジョンを書いてもらっては。
- ・PTAの集まりで意見を聞くとか、「やいこみゅ」等を活用して広く意見を聞いてみては。
- ・各種データや議論の公表も願う。

- ・市民がどの程度再配置に関心があるか把握し、更なる周知が必要。若い世代が出席していないことが心配であり、市民の協働に必要なエネルギーになるため、若者への呼びかけを。
- ・未来を担う中高生の意見を取り入れて欲しい。
- ・若い世代・子供たちを巻き込んで将来を考えて欲しい。
- ・若い人にも聞いて考えて欲しい。
- ・次世代の参画（理解・協働を含めたもの）が必要。
- ・策定委員として、若い世代や女性を登用し意見を出して欲しい。
- ・性別・世代で偏りのない意見を反映させた計画の策定を。
- ・リーダーシップを発揮し着実に計画を実行して欲しい。
- ・意見を聞くのも良いが、最後は決断を。
- ・トップダウンによる方向付けは大変危険。単にコスト財政のみの基準判断は納得がいかない。
- ・未来の矢板のビジョンを第一に、魅力あるまちづくりを進めて欲しい。
- ・街づくりのランドデザインの検討も並行して進めるべき。
- ・再配置計画を進めつつ、施設の有効性を高めるまちづくりをして欲しい。
- ・矢板の歴史を踏まえ、新たな歴史の掘り起こしなどにより誇れる街づくりを目指し、人の流入する計画づくりを。
- ・財政計画はマイナスばかり言われるが、プラスにする努力も必要ではないか。
- ・コンパクトシティ化、中央集約化出来ないか検討してみてもは。
- ・コンパクトシティ化は必要。但し、市内から遠い人たちの利便性を考える必要がある。
- ・コンパクトシティは非現実的。住み慣れた地元を離れた住民はほとんどいないはず。従って、そのことを前提に再配置を進めるべき。
- ・地域ごとに掛かる費用を算出し、それを周知することにより生活圏の縮小を。
- ・利用者が少なくコストがかかるものは廃止する。小学校に関しては、地域に協力をお願いする。
- ・小中学校の統廃合は近い内に進めるべき。現在のスクールバスには2～3人しか児童が乗っていない状態を見かける。統廃合を進めて効率化を図るべき。
- ・小中学校等の統廃合のシンポジウムも実施した方が良い。
- ・市内3つの中学校に各種公共施設を統合しては。
- ・市役所をはじめ矢板の顔となる施設は早急に改善を進め、イメージアップにつなげてほしい。
- ・市庁舎の建替えは急務と考える。
- ・市役所新築の際は複合化を。例えば駅と併せたもの。
- ・他市町（大田原市）にあるような複合施設及び民間活力の導入は必要。
- ・思い切った統廃合をすべき。
- ・老朽化に問題のある建物が多くある中、無駄な施設の見直しは必要。
- ・利用者数を第1にして検討して欲しい。
- ・施設削減がサービス低下につながらない対策を。NPOやボランティアの積極的な活用を。
- ・子供から高齢者まで老若男女が集って活用できる施設があれば、もっと若者も増えるのでは。
- ・類似の施設については、積極的に統合を進めて欲しい。
- ・不要なものは廃止し、更地の利用を考えて欲しい。

- ・何を優先すべきか。コストか地域活性化か検討の余地がある。
- ・若い人が利用するものは廃止すべきでない。
- ・大規模な自然災害に対応できる公共施設の設置を望む。
- ・再配置とフットボールセンター建設は相反するものであり、将来の負の遺産となる可能性も高い。
- ・今回、具体策が出されておらず、再配置計画の方向性が不明確。小田原評定にならないように。
- ・施設を建設する際は、30～50年で寿命の尽きる鉄筋コンクリート造から、耐久年数の高い木造・石造の建築物へ。
- ・施設を利用する側としても、魅力のある活動を行い、若い世代の利用を促進していきたい。
- ・他市との合併も検討しては。